

[34_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
34(2)

<https://doi.org/10.15017/1470456>

出版情報 : 図書館情報. 34 (2), pp.21-44, 1998-09-30. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 34, No. 2 (1998)

目 次

- ・ アビシニア高原での化学戦争.....21
- ・ 科学と恋愛.....23
- ・ 平成10年度国立大学図書館協議会賞を受賞.....24
- ・ 西洋古刊本の修復——作業報告.....25
- ・ 「Web of Science」 共同利用実験報告29
- ・ 学内部局図書室の利用手続きの簡素化・統一化について.....30
- ・ CDチェンジャーによる CD-ROM の利用について
 一端末で自由に多数の CD-ROM が利用できますー31
- ・ 所蔵資料の博物館等への展示出品.....32
- ・ 雑誌記事索引 CD-ROM 版検索マニュアル33
- ・ 学部図書室の利用について～工学部中央図書室案内～.....37
- ・ 平成9年度九州大学附属図書館入館者統計.....39
- ・ 自著紹介.....41
- ・ 本学関係者著作寄贈図書.....43
- ・ 秦教勲ソウル大学校中央図書館長講演会の開催について.....44

アビシニア高原での化学戦争

■
医学分館長

井 上 尚 英

第一次世界大戦では、おびただしい数の化学物質が化学兵器として投入された。これはまさに化学戦争であった。イタリアはこの戦争に参戦したものの、あまり得るところはなかった。この戦争においてイタリアにとって最も屈辱的であったのは、化学工業の発展があまりにも遅れており、第一次世界大戦における化学戦争にはじっと耐え続けねばならなかったことである。

1922年10月30日、イタリアではファシスト党員の集団がローマに入場し、翌日ムッソリーニが首相に指名され、ファシスト政権が誕生した。ムッソリーニは、イタリアは世界列強の仲間入りをし、念頭であったローマ帝国の再興をめざした。まず、アフリカに残る唯一の独立国エチオピア侵略を計画した。1935年10月3日、イタリア軍は宣戦布告をすることなく、エチオピアに侵攻を開始した。こうして第二次

エチオピア戦争が始まることとなった。この戦争では、イタリアは40万人以上の軍隊と10万人以上の労働者を投入して、早期に首都アジスアベバの占領をめざした。イタリア軍はエチオピアの拠点となる町や要塞を戦車を主体とした機動部隊で攻撃し、次々と占領していった。しかし、広大な土地に分散しているエチオピア軍を叩くことは、なかなか困難であることに気付いた。そこで、イタリアは空軍を投入してエチオピア軍の拠点を攻撃し始めた。イタリア軍機は無差別に爆弾を落とし、焼夷弾で町や村を焼いていった。その頃にはイタリア軍は第一次世界大戦でつくれなかったイペリットが増産されていた。イタリア軍はこの戦争の初期から化学兵器イペリットで攻撃していたが、時とともに次第に大胆になっていった。次々と攻撃を重ねるうちにより有効な攻撃法を学んでいった。そして最終的には二つの方法でイペリットを散布した。一つは、イペリットを充填した爆弾を投下するというもので爆弾が破裂すると爆発地点から200mにわたって液状のイペリットが飛び散った。もう一つの方法は、飛行機に取り付けた噴射装置を使用して、エアロゾルの形で散布するというやり方である。イペリットが散布されると決まってマスタードの匂いがしていた。エチオピア軍の兵士たちは最初それが何であるのか分からなかったが、その攻撃の後、恐ろしい事件が次々と発生したことから、何か不吉な“有毒ガス”がばらまかれていることを肌で感じていた。マスタードの匂いがすると、エチオピア兵は散り散りに逃げた。身の

危険を感じて攻撃地点に近寄ることはしなかった。エチオピア軍の輸送に欠かせないラバは、イペリットで汚染された草を食べてバタバタと倒れていった。ラバがいなければアビシニア高原の狭く険しい山地は移動できないし、物資の輸送もできない。食料や軍事物資の輸送は次第に困難となり、離散する部隊も増えてきた。エチオピア軍の兵士たちはほとんどが素足であったため、必ずといってよいほどイペリットにより火傷になった。この火傷はいつまでも治らず、兵士たちを苦しめた。足には大小様々の水泡ができ、水泡が破れると、化膿してびらんになった。このびらんによる痛みのため、歩けない兵士が続出した。飛行機からイペリットのエアロゾルの噴霧を受けた兵士たちは、皆眼がやられた。激しい結膜炎のため眼が開けられず、まったく身動きできなくなった。高濃度のイペリットを吸入した兵士たちは呼吸困難をきたして、次々と死んでいった。戦場では、「アピート…アピート……。哀れみ給え……。哀れみ給え……。」と叫びつつ多く兵士が倒れていった。こうして、エチオピア軍は敗退し、5月5日首都は陥落した。ムッソリーニはこの戦争でイペリットを駆使し、勝利を勝ち取った。ローマ帝国の再興は可能となるかにみえた。しかし、イペリットの使用によってムッソリーニは、世界中のカトリック教徒の信頼を失った。とにかくイタリア軍の実力を過信したムッソリーニは、後にイタリアに破局をもたらすこととなった。

(いのうえ なおひで 医学部教授)

科学と恋愛

六本松分館長 高 藤 冬 武

現代世界を席捲し、我々の暮らしの隅々までその網に拵め捕られ、もはやそれなしでは生きてゆけぬ近代科学技術文明というものを誕生させたキリスト教、先駆けとして優れた科学や技術を発展させながらついに理論と実践を体系化させるに至らなかったその他の文明、この両者の比較は文学的にも興味深い問題を孕んでいる。ギリシャはその愛知主義により科学理論の実践化、技術化は思慮の外にあった。ローマは技術に終始して理論の体系化はできなかった。アラビアは科学を魔術（錬金術）と化してしまった。結局、このアラビア経由で西欧に入ったアリストテレス自然科学が、靈魂（精神）と肉体（物質）は敵対しないとする、宗教としては実に稀有な合理的一元論に立つキリスト教（スコラ哲学）に巧妙に組み込まれるに及んで近代科学の論理的基礎が形成されたのである。

（スコラ哲学において）人間とは、プラトン学派の信じるように、肉体という牢獄に一時的に閉じ込められた靈的な存在でも、物質世界という異国をさすらう旅人でもない。まさに人間から植物にいたる生物の全体ばかりでなく、生命は持たないが「形相」の原理は具えている無機体までを含んだ「自然」という動的な、偉大な秩序の一部分となるのである（ドゥソン：中世文化における科学の発達）。

そして、十七世紀ピュリタニズムの禁欲的实践を通して実験科学が成立、近代科学技術文明が誕生し、ここから人間のあらゆる意味での欲望充足の可能性がひらけ、その手段と方法の飽くことなき追求の結果と更なる進行は今に見る通りである。

このように、西欧の「知」と宗教が近代科学を生み出したのに対し、西欧の「情」は、東方から秘かに入ってきた異教（マニ教）の影響を受け、靈魂と肉体は相容れないという二元論的世界観に立ち、地上（肉体・物質）は闇と悪の場、天上（魂・精神）の光と善の世界こそ目指す理想であると考えた（プラトニズム）。そこから新しい恋愛思想が中世十二、三世の南フランスにその華を開き、一つの〈愛の文化〉を形成することになった。その恋愛はあくま

でも禁欲的であり、肉体（性）の介在を許さず、地上での完成はない。この思想の本質は愛は苦悩、愛は死という認識にある。恋愛小説の傑作がいずれも不幸な結末、運命に仲を裂かれ別離と死に終るのもこのような意味において理解される。

ところで、科学技術という欲望充足の手段を得て傲慢となった近代人は、恋愛もこの地上で完成されるべき欲望の一つと見做すに至り、恋愛・結婚・幸福という三位一体を信じて疑わぬようになった（恋愛結婚の誕生）。しかし、夢と欲望は、ひとたび叶えられるや、風船がしほむがごとく緊張が萎え、習慣と日常化の中で魅力が色褪せ幻滅の悲哀を呈する。祝福され一緒になった二人は、こんなはずではなかったと愛の逆説と陥穽に泣くことになる。近代の恋愛は、禁欲的愛の悲劇から反禁欲的愛の悲劇への道を辿るのである。ひたすら求めたが得ることが叶わなかった者の精神の緊張と想像力の拡がり、求めたら得ることができた者の心の隙間に忍び寄る精神の弛緩と想像力の枯渇、「満たされぬが故の充足」と「満たされたが故の不満」のアイロニー：

《肉体的所有を伴わぬ愛というのは、欲望を激しくかき立てるといふ、まさにそのことによって維持されて行きます》（谷間の百合）

《人はパンなしで恋を語ることができるでしょうか》（マノン・レスコー）

《結婚するまでエマは恋をしているように思っていた。しかしその恋からくるはずの幸福がこないで、あたしはまちがったんだ、と考えた。至福とか情熱とか陶醉など、本で読んだあんなに美しく思われた言葉は世間では正確にどんな意味でいっているのか知ろうとつとめた。… ああ、なぜ結婚なんかしたんだろう》（ボヴァリー夫人）

科学と恋愛、奇妙な組合せながら、実は現代社会における二つの生き方が問われているのである。

（たかとう ふゆたけ 言語文化部教授）

平成10年度国立大学図書館協議会賞を受賞

—医学分館欧文研究論文業績集編集刊行担当グループ—

九州大学附属図書館医学分館欧文研究論文業績集の編集刊行担当グループが、平成10年度の国立大学図書館協議会賞を受賞した。この賞の受賞は昨年の特刊文庫目録編纂事業について本学としては2年連続2度目の受賞となる。

欧文研究論文業績集(Collected Papers)は医学部の各教室の業績目録を作成したもので、1981年より医学部大学院掛、1987年より医学分館を編集事務局として年1回発行されている。かつて本医学部での研究者の欧文論文生産率の高さが紹介されたことがあるが、Collected Papersの発行がその理由の一つであると学内で評価されている。

近年冊子体としての編集に加え'93～'95年分はホームページ版の公表等の事業もおこなわれ広く一般の利用者にも利用しやすいものとなった。WWW上で公開された資料は多様な検索を可能とし、日英相互翻訳辞書やシソーラス辞書を利用した訳語、関連語等の検索機能を有している。九州大学の蔵書目録とリンクし所蔵場所が即座に検索できるものとなっている。

(受賞理由)

- 1) 研究者の論文作成意欲を刺激する上で積極的に図書館職員が関わっており、他の国立大学図書館の参考となる。
- 2) WWW上で公開されたことで、個々の研究者の研究動向の把握が容易となり他機関との共同研究や研究助成への波及効果を期待できる。
- 3) 学内のみではあるがシソーラス検索を可能としている。
- 4) 巻末にMeSHをもとにしたSubject Indexを付与し的確な検索ができるよう利用の便を配慮している。



☆ Collected Papers のホームページ

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/collect/index.htm>

西洋古刊本の修復——作業報告

山 田 律 子

平成7年度に大型コレクションとして購入した「17—18世紀国際法史国制史コレクション」のデータベース化に伴う一連の整備作業の中で、傷みの激しい図書について修復処置を施すことになった。

図書は、そこに書かれた情報の「容れ物」というだけでなく、全体としてひとつの歴史的文化財でもあるから、本来ならば本学の蔵書全体について劣化状況の詳細な調査記録を作成し、これに基づいた補修、修復の全体計画を策定するのが本筋である。即ち、モノとしての寿命の限界内で利用のための補強をすれば事足りるものか、或いはモノとしての寿命を越えて内容情報を後世に残す手だてを別途施すものか、或いは内容情報はもとよりモノとしても丸ごと後世に残すべき貴重な資料であるのかを判断するための基準作りが先決事項であるが、残念ながら本学はまだこの基準を持っていない。しかし、今回修復対象とした図書は16世紀後半に出版された西洋古刊本、いわば稀覯本であり、当然貴重図書に分類される類の資料であるから、モノとして丸ごとを残す方針で修復を行うこととした。

手順として、当該図書の現状について可能な限り詳しく記録し、修復の方法について検討した。

[修復対象資料に関する記録]

①書誌事項

Les coutumes générales et particulières du Royaume de France & des Gaulles, mesmement toutes celles qui ont esté nouvellement rédigées par les trois Estats, & homologuées, corrigées & annotées de plusieurs décisions & arrests, diligemment & fidèlement par Charles du Moulin & autres iuriconsultes. A Paris : Chez Iaques du Puys librairie Iuré, à la Samaritaine, 1581. T. 1-2.

②版型（大きさ）：

Fol.: 38.2×28cm, (本体：37.2×25.8cm,) (巾は支持体の出っ張りを含む)

③厚さ：

T. 1, 8.4cm, (本体：7.4cm,) T. 2, 7.4cm, (本体：6.2cm,)

④表紙：皮革（材質不明、子牛皮か？ 色：茶色）

表面、裏面、及び背に金押型線と金模様、金背文字

⑤本体と表紙の接続：「とじつけ」か？

⑥見返しの構造：とじ見返し？ 見返しの紙は手漉き紙（本体とほぼ同じ手漉き紙）

⑦劣化の状況

- ・本体の状況：紙の波打ちが見られるが、それ以外の損傷はなく、本体紙の状態は健全である。
- ・見返し、及び表紙との接続部：接続部に損傷があり、嘗ての修復の痕跡が見られる。修復に使用した紙も本体紙とほぼ同じ手漉き紙。
- ・表紙：全体に革が劣化し、脆くなって粉をふいた状態。革がボロボロに破損し、台紙が露出している箇所がある。また、表紙の台紙の層が剥離して大きく開いている箇所があり、元の台紙を再使用しての修復が可能か否か疑問である。特に、表側の表紙は見返しの紙1枚だけで辛うじて本体と接続しているだけで大変危険な状態である。

幸いに2冊とも本文紙の劣化と綴じの傷みは殆ど見られない。表紙の傷みと、図書の構造に起因する表

紙と本体の接続部の傷みが非常に大きいので、これを修復する。以上のように観察、検討した結果、この修復は職員の技量を越え、高度の専門知識と技術を要するので、専門の業者に委託することにした。

上述したように、資料が持っている情報は、書かれた内容情報だけでなくそれが作られた時代や地域の文化を反映していて図書全体がひとつの情報であるから、装丁の素材、装飾、製本の構造などについて慎重に対処し、元の姿を極力残す方法で修復を行う。しかしどのように慎重を期しても、修復処置を施すこと自体が資料のオリジナル性を多少とも損なうものであるから、修復の前後の状態と修復の過程についてできる限り詳細に写真や記録を残す。

また修復処置によって、予め予想できなかった新たな問題が発生することもあり得るから、修復後は必ず厳正に評価し問題が発見されれば恐れずに原因の究明と再処置の方法を検討する。

以上の基本方針を立てて以下のように作業を実施した。

[修復の実際の記録]

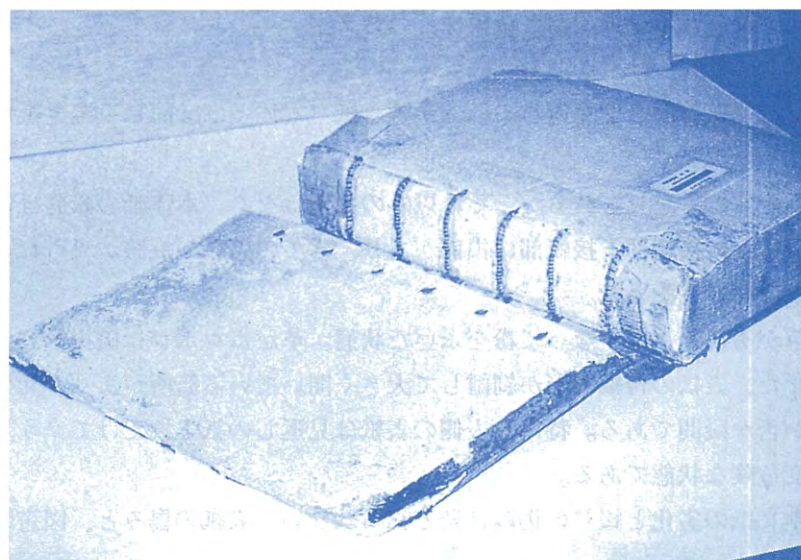
九州という地域的制約と年度末という日程の制約により、近在の限られた業者とのみコンタクトを取り、互いの条件がほぼ一致を見たA業者に今回の修復を委ね、平成10年2月～3月にこれを実施した。

以下は、業者の作業記録と図書館側の記録とを総合したものである。

①修復前外観



②修復前：表紙と本体の接続部（T. 1）



③表紙の修理

- 汚れ、ホコリ等を掃除。
- 革の破れ箇所、穴あき箇所に元本に最も近い色・質の牛革を（入れ込む）はさむ。
- 背部の破損箇所、バンド部等丁寧に分離作業。ニカワのカス等を取り除く。
- ジョイント部、寒冷紗の接着部は特に表紙をこれ以上いためないように充分気をつけて作業を行う。
- 天地のヘッドバンド部は特に破損がひどいため、後の補強に充分注意する。
- 元のボール（表紙）材料を再利用。分離している箇所の補強、接着をする。

④中身（本文）の修理

- 中身に付着している古いニカワ、寒冷紗等を取り除く。
- バンド部の糸切れ、本の綴じ糸の切れ等、麻糸にて綴じ直す。



- 中性紙・和紙見返し紙を（元の見返し紙はそのまま）貼り付ける。
- 崩れた本の固メを行う。「整本」
- 中身と表紙をくるみ再現仕上げで完了。
- プレス、乾燥。

⑤修復後外観



⑥修復に使用した材料（全て国産品）

- ・革：牛革
- ・見返し紙：中性紙（品名：ミューズコットンクリーム 135g/m²）
- ・接着剤：中性のり（品番：PC11L）
- ・糸：麻糸

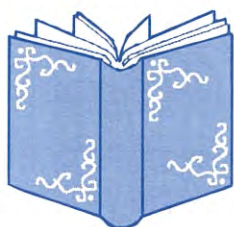
今回修復した2冊の資料は、弱アルカリ性（PH8.5）ボード（A Fハードボード：特種製紙製）の保存箱を自館で作成してこれを収納し、貴重書庫に保管した。

本館は、洋綴じの図書についてはマスとしての修理製本という形での資料保存対策の経験しかなく、相応の経費を負担しての貴重図書の修復という今回初めての試みは、大変貴重な経験となった。資料のオリジナル性を最大限残しながら利用のための修復を施すという当初の目的は概ね達成されたが、しかし準備不足のまま作業を急いだ点多々あり、幾つかの大きな課題を残した。

- ①古刊本であることの認識の上に立った、修復前の元本の表紙皮革、見返し紙、綴じ糸などの素材に関する観察、調査が不十分な状態で、修復に出したことが最大の反省点である。修復前の現状写真も業者任せではなく、図書館側で撮影したものを残すべきであった。
- ②修復に使用する材料や修復の方法について業者との事前の打ち合わせが不十分であった。元本のオリジナル性を最大限残すことを目標にしていたにも拘わらず、この相互確認の不足から、元本の製本構造を「とじつけ」から「くるみ製本」に変更してしまった可能性が大きい。堅牢な見返し紙を貼り付けた修復により表紙と本体が接続され外見上丈夫にはなったが、構造上の不安を感じる。
- ③日程上やむを得ない事情もあったが、この種の専門業者に関する情報が少なく、広範囲の業者について仕様の比較検討が十分にできなかった。日常的な情報収集が大切である。
- ④修復作業自体が個々のケースで経費も異なり明確な基準がないこともあり、今回の経費が妥当なものであったか否かについての判断が難しい。修復経験を持つ他機関との情報交換が必要である。

以上、全て手探り状態で実施した今回の修復作業であったが、修復の本質について非常に多くのことを学ぶことができた。資料保存のための修復作業は費やす経費の割には顕著な結果が見えにくい地味な作業ではあるが、本学においては今ようやく緒に就いたところであり、今回の仕事を踏み台にして今後如何にしてこれを継続させていくかが大事な課題であると考えてる。

（やまだ りつこ 情報システム課図書館専門員）



「Web of Science」共同利用実験報告

先頃より、お知らせしておりました「地域共同サーバによるデータベース共同利用実験」が無事終了した。これは九州地区国立大学図書館協議会の電子化推進連絡会議によって行われたもので、この結果は今後の図書館の在り方に大きくかかわってくるものである。

今回の実験は平成10年3月23日から同5月22日までの2ヵ月間にわたって行われ、検索端末台数1,900台、累計検索数73,416回を数え、心配していた利用者数については、予想以上の結果を得ることができた。実験最終日及びその前日に行ったアンケートの結果、内容について過半数の利用者が「役にたった」となっており、未回答の意見を除くとほぼ大多数の利用者が満足していると言える。その理由についても、「情報量が多い」、「簡単に広領域の文献を検索できるものは他にはない」など、スタッフにとっても満足のいく回答であった。しかしながら、一部の意見として、「まだまだ、雑誌数が少ない」、「自分の研究分野に関する文献が少ない」など、これからの問題点の指摘もあった。それらについては今後の課題として検討を重ねていきたい。さらに、今回の実験の一番の焦点であった検索結果のレスポンスについて、学内サーバと同じように違和感なく利用できたという意見が多く、問題なく利用できる状態の確保が可能であると思われ、地域サーバのシステム的な

裏づけが得られたといえる。

以上のように、九州地区における共同利用実験を通じ、「地域共同サーバ」の有用性については実証できたと言える。しかしながら、今回の成功の一端はWeb of Science というホットなデータベースを選択したことに依存していることは否めない。今回の様なデータベースを「地域サーバ」で利用するのが有用なのか、「全国サーバ」を利用するのか、もしくは「学内サーバ」で利用するのか、さらには収集分野や収集年次によってそれらを複合的に利用すべきか、さらに検討が必要であろう。また、その他のデータベースについても、学内のユーザの少ない専門的なものや、学内予算で購入するには、あまりにも高額なものなどを含め、どのような共同利用形態を構築していくか、今後の検討が待たれるところである。いずれにしても、データベースの共同利用化を実現するためには、共同サーバのようなハード環境を共有化することにとどまらず、人的・会計的なソフト環境についても、共同構築することが必要であると言えよう。

(地域共同サーバWG報告書 「地域共同サーバによるデータベース共同利用実験」平成10年8月 九州地区国立大学図書館協議会電子化推進連絡会議発行より抜粋)

学内部局図書室の利用手続きの 簡素化・統一化について

—平成10年10月1日から実施—

これまで学内部局図書室を利用する際は、学内利用者にあつては所属部局が発行する「学内図書相互利用申込書」が必要であり、また、学外者にあつては中央図書館が発行する「借用書」が必要でした。

このことは学内外の利用者から、本学図書館・室を利用する際の手続きが煩瑣で利用しづらいと指摘されていたところです。昨年度の附属図書館商議委員会において各部局での改善方について審議され、さらにこのほど開催された第167回同委員会（7月24日）において審議の結果、次のとおり利用手続きを簡素化し、全学共通の手続きにより利用できることとされましたのでお知らせします。

1. 学内利用者の手続き

- (1) 利用者が直接各図書館・室へ出向き、図書館利用者票または、学生証、身分証明書などを提示することにより、各図書館・室の定めた利用

手続で閲覧、貸出等のサービスを受ける。

なお、貸出期間、貸出冊数等は各図書館・室の規定による。

- (2) これに伴い、従来、各図書館等で交付していた「学内図書相互利用申込書」（A, B, C票3枚綴）は廃止する。

2. 学外利用者の手続き

- (1) 利用者が直接各図書館・室へ出向き、学生証または、身分証明書、所属大学図書館が発行する利用申込書などを提示することにより、各図書館・室が定めた利用手続で閲覧、一時貸出等のサービスを受ける。
- (2) これに伴い、従来、部局図書室利用の際に中央図書館が交付していた「借用書（3枚綴）」は廃止する。



CDチェンジャーによるCD-ROMの利用について 一端末で自由に多数のCD-ROMが利用できますー

中央図書館

中央図書館ではこのたび CD-ROM チェンジャー（100枚内蔵可能）を設置しました。利用者の方々は開館時間中、自由に多くの種類の CD-ROM を利用することが可能となりました。これまでは、レファレンスカウンターでの館内貸出手続きが必要だったため、17時以降や土曜・日曜の利用ができませんでしたが、CD チェンジャーの設置により自由に利用できるようになりました。

但し、利用できる端末は一台だけとなっていますので、マナーを守ってご利用下さるようお願いいたします。また、より多くの方々に交代で利用して頂くためにプリンターは接続していません。データを保存したい方はダウンロード用に MS-DOS フォーマットしたフロッピーディスクを、ご持参下さるようお願いいたします。

なお、午前中の時間帯のほうが、比較的使用が込み合っていないようです。

※ CD チェンジャーで利用可能な CD-ROM 一覧（平成10年 9 月現在）

（科学技術）

科学技術文献速報 全12分野 1995—1997

（自然科学）

理科年表 '97

Redshift2 : マルチメディア天文データベース

デンジャラス クリーチャーズ：知られざる野生動物たちの世界

OceanLife 日本語版 Vol.4

ヒューマンボディ

（社会科学）

NHKできごと for Windows

模範六法 1995

マルクス・エンゲルス全集事項索引

（新聞）

朝日新聞 全文記事 1993—1996

朝日新聞見出しインデックス 1945—1995

（辞典）

新潮文学倶楽部：CD-ROM 版マルチメディア文学辞典

世界大百科事典（平凡社）

国定読本用語総覧

（出版・図書目録）

大宅壮一文庫雑誌記事索引 1995—1997

CD-140万冊出版情報：戦後から現在まで

CD-翻訳図書目録45／92芸術・文学編

Journal citation reports. Science Edition. 1996

Journal citation reports. Social Science Edition. 1996

JICST 資料所蔵目録

(地図)

World atlas & almanac. Ver. 6

ゼンリン電子地図 '95：日本全国版

(芸術)

クジラに魅せられて：望月昭伸作品集

Peter Gabriel's Xplora /1, Secret World

釧路湿原／表優臣写真；太田正美音楽

北斎：Hokusai（浮世絵版画名選集）

写楽：Sharaku（浮世絵版画全集）

廣重：Hiroshige（浮世絵版画名選集）

福岡市都市景観賞受賞作品集 87—97

(その他)

阪神大震災&地震・防災 from 1988

韓国をさわろう

マジカル KYOTO

所蔵資料の博物館等への展示出品

展 示 名：太宰府発掘30周年記念

特別展「太宰府復元」

場 所：九州歴史資料館

期 日：平成10年10月23日(金)～11月29日(日)

出展資料：日本書記 1 帙 7 冊

旧唐書 1 帙 9 冊

都府楼図巻 1 軸

筑前国続風土記 1 帙 6 冊

古事記（序） 1 帙 3 冊

太宰管内志 1 帙 6 冊

展 示 名：「天のシルクロード展」

場 所：アクロス福岡「交流ギャラリー」

期 日：平成10年10月20日(火)～10月30日(金)

出展資料：天文成象 1 点

平天儀図解（恒星之図） 1 点

諸儀象図（全四巻） 4 点

雑誌記事索引 | CD-ROM 版検索マニュアル

「雑誌記事索引 CD-ROM 版」では、国立国会図書館が所蔵している国内で発行された雑誌約5500誌の論文を検索できます。この中に収録されているデータは、冊子体の「雑誌記事索引1985年版」以降（冊子体は1995年で終了）で、データの更新は、年4回です。

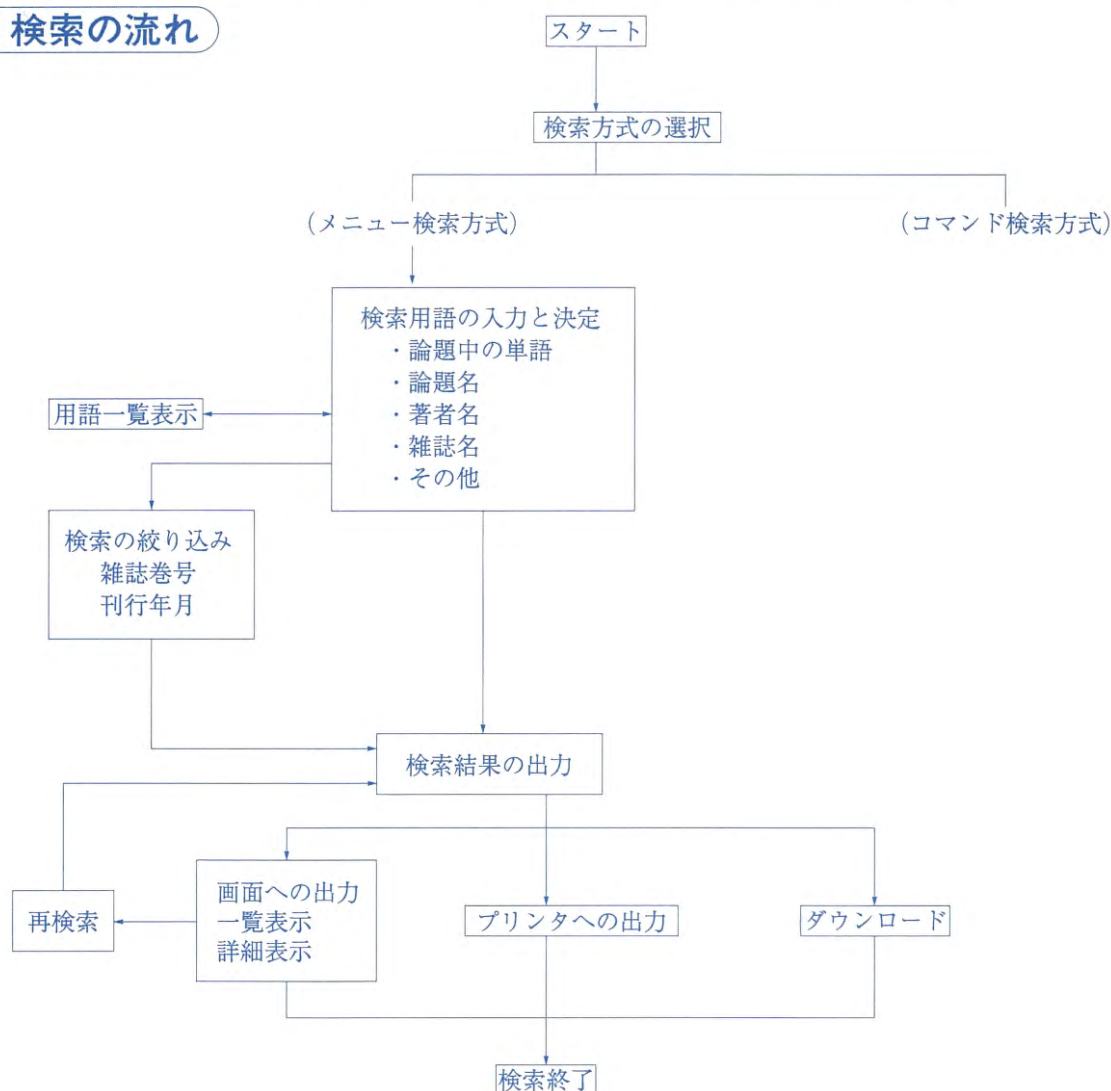
検索方式にはコマンド方式と、メニュー方式がありますが、使い方が簡単なメニュー方式について説明します。

雑誌記事索引は、九州大学内ではネットワークで利用できます。（Windows PC に限る）
接続方法等は図書館ホームページ、又は <http://mlib.lib.kyushu-u.ac.jp> をご覧ください。

1、収録雑誌の確認の方法

画面上部の「表示」→「採録誌一覧」をクリックして、収録されている雑誌の確認をします。

2、検索の流れ



3、論題中の単語、著者名、雑誌名の入力方法

I、入力した用語の前方一致検索を自動的に行いますので完全一致検索を行う時は、用語の後ろに「/」を入力して下さい。

☆入力例) 核融合、核融合炉、核融合開発...等を検索する場合——核融合
 核融合のみを検索する場合——核融合/
 「庄野潤三」が書いた記事を検索する場合——庄野、庄野潤三、
 庄野 潤三、庄野*潤三
 ショウノ、ショウノジュンゾウ、
 ショウノ ジュンゾウ、ショウノ*ジュンゾウ

II、文字の入力は表記通り（漢字が一般的）か、読み入力の場合はカタカナを入力します。
 半角、全角の区別、読みのカタカナの分かち書きについては気にしないで検索できます。

☆入力例) 核融合開発を検索する時
 核融合、開発、核融合開発、核融合*開発、カクユウゴウカイハツ、
 カクユウゴウ、カイハツ、カクユウゴウ*カイハツ

III、同じ項目内の論理積と論理和の入力方法

論理積：用語と用語の間に「*」を入力する。

☆入力例)

核融合とプラズマに関する論文を探す。——核融合*プラズマ、
 カクユウゴウ*プラズマ

論理和：用語と用語の間に「+」を入力する。

☆入力例)

核融合あるいはプラズマに関する文献——核融合+プラズマ、
 カクユウゴウ+プラズマ

IV、雑誌名の入力方法

① ISSN ナンバーが判っている時はナンバーを入力する。

☆入力例) 00047120、0004-7120 ハイフンは省略できます。

② 正確な雑誌名が判らない場合は判るところまで入力して「参照」ボタンを押して
 雑誌名一覧の中から選ぶ方法もあります。

③ 雑誌名を用語に分けて検索する場合——上記 I、II、III の入力方法と同じ。

4、分類コードの入力方法 (1995年12月までのデータのみ可能)

① 「雑誌記事索引分類コード表」で、分類コードを確認して分類コードの項目に入力する。

② 分類コード表を見ないで入力する際は、分類コードの項目にカーソルを持って行って「参照」ボタンをクリックする。

大分類表が表示されるので、その中から1つ選んで「下位分類」ボタンをクリック。

必要なものを選択する。

★アドバイス

- ・参照ボタンは著者名から検索しようとする場合、姓がわかっていて名前があやふやな場合にも効果的に利用できます。
- ・論題やキーワードの検索をする時は、「論題名」の項目より「論題中の単語」の項目の方に用語を入力した方がより多数の文献を見つけられます。
- ・キーワードや雑誌名、著者名で検索する時に、ヒット件数が多すぎたり、特定の年月や特定の巻号の記事だけ拾いたい時は、「絞り込み検索」の項目に半角の数字を入力して下さい。

☆入力例) 雑誌「山と溪谷」1997年12月から1998年1月の記事を探す場合

5、再検索

詳細表示させた文献に関連のある別の文献を探す方法です。

同じ著者の他の文献や、同じキーワードを使った別の文献を見つける事ができます。

手順は、詳細表示で「再検索ボタン」をクリック→使用したい著者名やキーワードをクリック→「検索実行ボタン」をクリック→検索メニュー画面に選んだ用語が入力されている→「検索終了・OK」→表示画面へ

6、履歴参照

起動時からの検索式と結果をすべて表示するので、以前に行った検索式の確認をしたり、再び同じ検索式を検索に利用できます。

メニュー検索画面の「履歴参照ボタン」をクリック→表示した中から利用したい履歴をクリック→「選択ボタン」をクリック→検索メニュー画面に選んだ用語が入力されている。→「検索実行」

7、検索結果の表示、選択、印刷、ダウンロードの方法

I、一覧表示画面から詳細画面への展開

- ①検索ヒット件数が1件の場合は、「詳細画面」が現れます。
- ②2件以上の場合は「一覧表示画面」が現れて、「検索ヒット件数」、「検索式」の下に検索結果が、「番号」、「論題名」、「著者名」、「雑誌名」、「刊行年月」の順番で、1行1論文ずつ表示されます。その中で、興味のある記事の行にカーソルを持って行ってクリックして黒く反転させて、詳細表示ボタンを押すとそのデータの詳細画面に移行します。
- ③「一覧表示画面」で、詳細表示させたいデータを、複数、先に選ぶ方法。
 - ・続き番号を選ぶ時は、選択したい中で一番最後の番号にカーソルを持って行って、「SHIFT」+クリックで、その番号までのデータがすべて黒く反転します。
 - ・飛び番号を、複数選ぶ時は、選択したいデータのところにカーソルを持って行って、「CTRL」+クリックを繰り返すと、選ばれたデータが飛び飛びに黒く反転します。
 - ・黒く反転させた後で「選択一覧」ボタンをクリックすると、選択したデータだけの新しい集合の「一覧表示画面」に移行します。「詳細表示ボタン」をクリックすると、「詳細表示画面」に移行して、番号の早いデータから順番に表示する事ができます。

II、印刷方法

- ・「一覧表示画面」で上部ツールバーの「印刷コマンドボタン」をクリック。
そのまま「OK」するとその画面（一覧表示）が印刷されます。
印刷形式の箇所を「詳細」にチェックして「OK」すると、詳細表示画面に展開させなくても、一度に「一覧表示画面」のデータを、詳細表示の形式で印刷出来ます。
- ・「詳細表示」画面で「印刷コマンドボタン」をクリックして、印刷画面で「OK」すると、その1件のデータの印刷が出来ます。

III、ダウンロードの方法

- ・一件ずつダウンロードする場合は、「一覧表示画面」でダウンロードするデータを選んで詳細表示します。
上部ツールバーの「ダウンロードコマンドボタン」をクリック。
モードを新規か追加か選んで、ファイル名を入力して「OK」します。
- ・7-I-③の方法で複数のデータを選んで「選択一覧」した画面で、上部ツールバーの「ダウンロードコマンドボタン」をクリックすると、まとめてダウンロードできます。

★注意

- ・どの画面でダウンロードしても、ダウンロードされたデータはすべて詳細表示の形式でのテキストファイル形式となります。
- ・「選択一覧」した後に、その中から一件のデータを詳細表示させて、そのデータをダウンロードすると、画面の表示とは異なったデータがダウンロードされますのでご注意ください。

8、ヘルプ

画面上部の「ヘルプ」→「トピックの検索」をクリックすると、検索の方法の詳しい説明や、画面の解説などを見ることができます。

学部図書室の利用について

—工学部中央図書室案内—

工学部図書室は、箱崎キャンパス本部事務局前の工学部本館に隣接した建物の2階にある。建物内には図書掛事務室、教官閲覧室、学生閲覧室、新刊雑誌室があり、連結の別棟書庫には外国雑誌のバックナンバーや工学部の学科から持ち込まれた一部の図書資料が配架されている。建物の1階は工学部学生控室を兼ねた食堂であることから、図書室の場所を聞かれた場合、工学部食堂の2階と説明することになっている。

昭和63年、工学部中央図書室は、それまで学科単位で管理運営していた利用率の高いと思われる外国雑誌約550タイトルをバックナンバーを含め集中化

し、新着雑誌の到着状況の通知を兼ねて学科へのコンテンツ・サービスを開始した。また図書室内に複写機を設置したり、平日夜8時までの時間外開館の実施等、研究者支援のサービスは現在も引き継がれている。

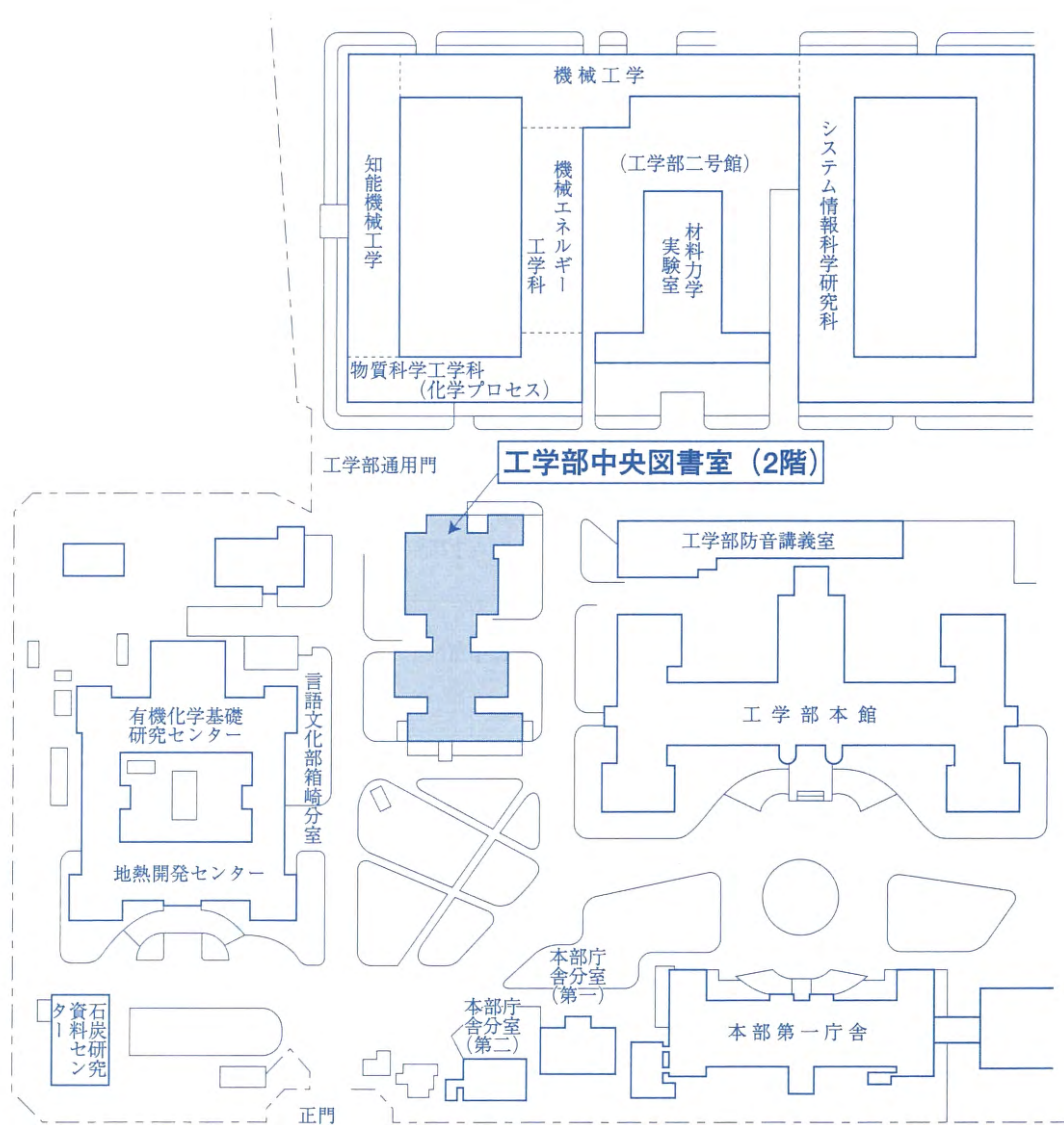
工学部図書掛の業務として、工学部とシステム情報科学研究科で購入する和洋図書資料の支払、外国雑誌の受付（外国雑誌の契約は附属図書館で一括）、国内雑誌の受付支払、学術情報センターへの入力、製本、学内者や学外者への閲覧、参考業務等及び学科図書室への連絡等があげられる。

概 要	外国雑誌のみ約1,200タイトルを所蔵している。 集中化雑誌学科名：機械、知能機械、機械エネルギー、物質科学（物質創造）、物質科学（材料物性）、物質科学（化学システム）、エネルギー科学、超伝導科学研究センター、知能システム学、情報工学、電気電子システム工学、電子デバイス工学。 図書資料はすべて学科図書室所蔵です。
開室日及び開室時間	1月～7月、9月～12月は月曜日～金曜日：9時から20時まで 毎月1日は9時から17時まで（土、日、祝祭日の場合は翌日） 8月は月曜日～金曜日：9時から17時まで
休 室 日	土曜日、日曜日、祝祭日、年末年始。
利 用 方 法	①入室は図書館利用者票、身分証明書、運転免許証、各種免許証等が必要です。 ②貸出は学内者に限ります。貸出冊数3冊以内、貸出期間3日間。 ③新着雑誌及び未製本雑誌は貸出できません。複写のための一時貸出が利用できます。
備 考	学科図書室所蔵の図書や雑誌を利用される場合は、所蔵学科に該当資料の有無や利用方法を確認してください。

利用に関する問い合わせ先：工学部中央図書室（内線：3248、8774）



工学部中央図書室



平成 9 年度九州大学附属図書館入館者統計

部 局	(人) 中央図書館	%	(人) 医学分館	%	(人) 六本松分館	%	(人) 合 計	%
文 学 部	15,639	5.00	48	0.04	13,148	7.10	28,835	4.55
教 育 学 部	6,335	2.03	147	0.11	6,145	3.32	12,627	1.99
法 学 部	44,599	14.27	159	0.12	22,622	12.22	67,380	10.64
経 済 学 部	22,052	7.06	155	0.11	14,335	7.74	36,542	5.77
理 学 部	65,843	21.07	1,125	0.83	23,315	12.59	90,283	14.25
数 理 学 研 究 科	7,830	2.51	0	0.00	892	0.48	8,722	1.38
工 学 部	65,719	21.03	561	0.41	49,165	26.55	115,445	18.23
シ ス テ ム 情 報	3,141	1.01	0	0.00	0	0.00	3,141	0.50
農 学 部	58,996	18.88	1,254	0.92	20,675	11.16	80,925	12.78
医 学 部	1,665	0.53	75,337	55.51	6,787	3.66	83,789	13.23
医 学 部 附 属 病 院	31	0.01	12,364	9.11	1	0.00	12,396	1.96
歯 ・ 歯 学 部 病 院	188	0.06	10,512	7.75	4,704	2.54	15,404	2.43
医 療 短 大	152	0.05	24,064	17.73	107	0.06	24,323	3.84
薬 学 部	736	0.24	8,050	5.93	6,141	3.32	14,927	2.36
生 医 研	5	0.00	878	0.65	0	0.00	883	0.14
比 文 研	2,380	0.76	33	0.02	9,815	5.30	12,228	1.93
言 語 文 化 部	55	0.02	46	0.03	476	0.26	577	0.09
大学教育研究センター	41	0.01	0	0.00	159	0.09	200	0.03
総合理工学研究科	1,909	0.61	45	0.03	25	0.01	1,979	0.31
応 用 力 学 研 究 所	37	0.01	0	0.00	0	0.00	37	0.01
機 能 研	86	0.03	0	0.00	0	0.00	86	0.01
健康科学センター	13	0.00	28	0.02	61	0.03	102	0.02
石炭研究資料センター	21	0.01	0	0.00	10	0.01	31	0.00
大型計算機センター	10	0.00	1	0.00	0	0.00	11	0.00
図 書 館 (注 1)	175	0.06	6	0.00	328	0.18	509	0.08
六本松分館 (注 2)	12	0.00	0	0.00	5,428	2.93	5,440	0.86
事 務 局	298	0.10	2	0.00	5	0.00	305	0.05
学 務 部	1,131	0.36	4	0.00	32	0.02	1,167	0.18
そ の 他 (放送大学)	413	0.13	0	0.00	101	0.05	514	0.08
(他 大 学)	2,329	0.75	0	0.00	403	0.22	2,732	0.43
(一般市民)	10,662	3.41	907	0.67	318	0.17	11,887	1.88
合 計	312,503	100	135,726	100	185,198	100	633,427	100

注 1) 利用者票不携帯学内利用者及び未登録学外利用者

注 2) 利用者票不携帯学内利用者

● 図 書 館 日 誌 ●

(平成10年 5 月～平成10年 8 月)

5. 1 環境美化作業

- 11 第39回貴重文物展観 (17日まで) (中央図書館)
- 11 公開講演会 (中央図書館)
- 12 平成10年度第1回データベース購入検討専門委員会
- 14 平成10年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会 (田川市)
- 22 全学図書系掛長会議
- 22 図書資料分類法の統一に関する検討会議
- 26 平成10年度国立大学附属図書館事務部・課長会議 (東京医科歯科大学)
- 27 国立大学図書館協議会常務理事会 (東京大学)
- 28 国立大学図書館協議会理事会 (東京大学)
- 29 国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会 (学術情報センター)

6. 3 平成10年度第1回分館長会議

- 8 目録システム地域講習会 (10日まで) (参加者：学内 5 名、学外 5 名)
- 11 I L L システム地域講習会 (12日まで) (参加者：学内 4 名、学外 6 名)
- 11 外国雑誌センター館会議 (東京大学)
- 19 全学図書系掛長会議
- 19 図書資料分類法の統一に関する検討会議
- 23 第45回国立大学図書館協議会総会 (25日まで) (鹿児島市)
- 26 釜山大学校歯科大学教官及び学生一行中央図書館見学

7. 6 情報ネットワーク担当職員研修 (10日まで) (学術情報センター)

- 6 平成10年度第1回附属図書館研究開発室懇談会
- 7 平成10年度第2回分館長会議
- 7 「Collected Papers」国立大学図書館協議会賞受賞祝賀会 (中央図書館)
- 21 図書館情報編集委員会
- 23 N A C S I S - I R 地域講習会 (参加者：学内 9 名、学外12名)
- 24 平成10年度第 3 回分館長会議
- 24 第167回附属図書館商議委員会
- 25 九州地区国立大学附属図書館ソフトボール大会 (26日まで) (佐賀大学)
- 30 全学図書系掛長会議

8. 11 釜山大学校図書館長 鄭東鉉教授中央図書館来館

- 25 国立大学図書館協議会図書館電子化システム特別委員会 (京都大学)
- 31 九州地区大学図書館協議会監事館・副監事館会議 (中央図書館)
- 31 九州地区大学図書館協議会誌編集委員館会議 (中央図書館)

..... 記事の訂正

Vol.34、No.1、p.8 上から 2 行目の (1978-1991) は (1987-1991) の間違いでした。お詫びして訂正いたします。

自 著 紹 介

中山正敏（理学部教授）
淵田吉男（理学部助教授）

『物質の世界： ミクロからマクロへ』

[中央図書館 429/B 95]
[六本松分館 428/N 45/58980212]
[医学分館 QC 171/B 95/1998]

本書は、全学共通教育のコア教養科目の一つである「物質の世界」の標準教材である。この科目を担当する物理と化学の教官は、授業計画について意見を交換し、授業経験を交流してきた。そこへ柴田副学長から標準的な教材をまとめてはとのお勧めをいただき、学内の教育研究特別経費、同プロジェクトの援助を得て、12名が分担して執筆した。本書の内容は、原子、分子、素粒子のミクロな構造から出発して宇宙に到るマクロな世界までの現代の自然観を、物理、化学分野のそれぞれ8章ずつで説明したものである。高校で物理や化学を履修していない学生、特に文系の学生にも興味を持たせるように、見開きの左側ページは話の筋書き、右側ページには図、データ、イラスト、写真などを載せ、親しみやすいレイアウトにした。また、手軽な観察、実験、作業などを織り込んで、学生の能動的な学習の手掛かりとした。こうして本書は、物質の世界への知的な旅を誘うガイドブックのようなものとしてできあがった。ご一読いただいて、ご批判を賜りたい。

大住圭介（経済学部教授）

『長期経済計画の 理論的研究』

[中央図書館 333.1/O 79/1]

以前、経済理論上十分に顧慮されることがなかった社会保障、年金、国債等々の問題が最近になって盛んに議論されるようになり、早急に解決を迫られ

ている検討課題になってきた。このように新しく生じてきた一連の問題は、静態的あるいは短期的なコンテキストのもとでは、十分に論究することが不可能であり、長期的かつ動態的なパースペクティブに立った経済分析の確立を必要としている。このような状況を踏まえて、本書では、動態的経済システムのもとで、合理的な長期経済計画の策定のための理論上の論点を明確にし、さらに、これまで十分に考慮されなかった純理論上の分析的側面に関して、厳密な理論的基礎を提供することを企図している。総ページ（382ページ）

大住圭介（経済学部教授）

『経済計画の理論』

[中央図書館 333.1/H 51/1]

本書は、経済計画の理論的基礎を提示するものとして、評価の高い古典的文献、G. M. Heal, *The Theory of Economic Planning* (North-Holland) の翻訳である。

本書では、経済計画全般にわたる議論の後に、計画の問題が時間的ヒエラルヒーとしてとらえられ、短期の経済計画の理論、長期の経済計画の理論が包括的かつ一貫した体系で展開されている。

国民経済レベルでの経済計画は、一般的に、資源に関する制約条件と技術的制約条件のもとで実行可能な種々の経済状態のうちで、社会的厚生を最大にするようなものを選び出す問題として設定される。短期の経済計画の理論的課題は、生産技術を所与として、生産要素をいかに各産業に配分し、その生産の成果を構成員の間にいかに分配するかということである。一方、長期経済計画の理論は、将来の経済活動のガイドラインとして、主として、国民経済が所与の資本ストックの状態からいかなる成長を辿ることが最も理にかなっているかを解明することに関係している。

前半の諸章では短期の経済計画が展開され、後半では、長期の経済計画が議論されている。

大住圭介（経済学部教授）

『イノベーションと内生的 経済成長：グローバル経済 における理論分析』

[中央図書館 331.81/G 88]

この訳書は、G. M. Grossman and E. Helpman, *Innovation and Growth in the Global Economy*, (MIT Press, 1991) の全訳 (492ページ) である。さらに、この邦訳版では数理的展開の補足、経済的含意の明確化のために、各章ごとに多数の訳注を付するという試みがなされている。今日、技術革新の経済厚生への貢献の増大と各国経済の開放性や相互依存性の高まりが、二つの潮流となって世界経済のダイナミズムを生み出している。情報伝達手段の高度化は、新たなアイデアや知識情報の伝播を容易にするとともに、急速な技術革新は貿易を活発にし、世界貿易体制への統合の動きを加速させている。これら変貌する現実を見据えて、本書は技術進歩が成長に与える経済的要因に焦点を当てるとともに、世界的な技術競争の下で比較優位の動態的進展とその国際貿易への影響を分析する。伝統的な視点を超え貿易理論や成長理論、イノベーション理論などを統一的に考察する理論的枠組みを構築・展開した画期的業績である。異なる成長過程の相互依存や工業国間の技術競争、貿易と成長の関係、南北貿易における技術開発の意義など、グローバリゼーションの渦中から提起される課題に答える必読文献。

大住圭介（経済学部教授）

『経済計画分析：最適配分 と分権的調整の数理』

[333.19/Ke 29-10/10]

市場機構がパレート最適な状態の達成に失敗する状況、いわゆる市場の失敗の例としては、通常言及されているように、公共財、外部性、平均費用逓減財、あるいは不確実性などが存在する状況が考えられている。国民経済の質的および量的な拡大に伴って、公共財、外部性、および不確実性などの存在の比重は増加しており、その結果、市場の失敗の可能

性はいっそう増加しているといえるであろう。したがって、近代的国民経済のもとでは、(素人談義で語られているような) 市場の自律的な調整機能にまかせているだけでは不十分であり、市場の機能を補完するものとして、賢明な政府による適切な経済計画あるいは経済運営の役割も重要なものになり、今後、その重要性はいっそう増大していくことができるであろう。つまり、市場の計画による補完が必要とされているといえることができる。

他方、東欧あるいは旧ソ連の動向によって示唆されるように、計画の失敗が現実の問題として顕著になってきた。さらに、中国のような社会主義的経済体制のもとでも、意志決定の分権化あるいは市場の導入の必要性が主張されるようになってきている。つまり、計画の市場による補完が必要になってきているといえることができるであろう。

本書では、‘市場を計画で補完する’という問題と‘計画を市場で補完する’という問題を中心に、数理的な議論を展開する。

大住圭介（経済学部教授）

『内生的経済成長論 I, II』

[331.19/Sa 53/1A]

[331.19/Sa 53/2]

本書は、Barro R. J. and X. Sala-i-Martin, *Economic Growth*, McGraw-Hill, 1995の日本語訳である。原著は大著のため、日本語訳は、I, IIの2巻に分けて訳出する。I巻 (385ページ)、II巻 (407ページ)。訳書は、ほとんどの章に、数式の導出過程を含む多数の訳注を付している。

現在、内生的成長論 (endogenous growth theory) は、経済学の研究領域のうちでもっとも活気のある分野となっている。

本書の意義は、既存の成長理論を内生的成長理論との関連で位置づけ、一貫した体系にまとめあげ、さらに、実証結果との関連を重視し、実証科学としての可能性を強調している点にある。特に、次の実証的帰結に注目して、モデルの展開が行われている。

- ① 持続状態における一人当たり所得の成長率がプラスであること、つまり内生的成長の可能性。
- ② 一人当たりの所得水準の上昇に伴って、一人当たり成長率が逓減的傾向を辿ること、つまり収束性。



本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

〔中央図書館〕

小山 勉 (名誉教授：法学部)

「教育闘争と知のヘゲモニー：

フランス革命後の学校・教会・国家」

小山 勉著

お茶の水書房 1998

[中央図書館 372.35/O 95]

秋吉久紀夫 (勝廣) (名誉教授：言語文化部)

「牛漢 (ニウハン) 詩集：現代中国の詩人」

牛漢著；秋吉久紀夫訳編

土曜美術社出版販売 1998

[中央図書館 921.7/G 99]

柳原正治 (法学部教授)

「ヴォルフの国際法理論」

柳原正治著

有斐閣 1998

[中央図書館 329.01/Y 53]

[六本松分館 329.01/Y 53/58971761]

[法学部図書室 Mj 16/Y]

豊永郁子 (法学部助教授)

「サッチャリズムの世紀：作用の政治学へ」

豊永郁子著

創文社 1998

[中央図書館 312.33/To 88]

[法学部図書室 Jj 79.1/T/3]

中山正敏 (理学部教授) 淵田吉男 (理学部助教授)

「物質の世界：ミクロからマクロへ」

中山正敏, 淵田吉男編

九州大学出版会 1998

[中央図書館 428/B 95]

[医学分館 QC 171/B 95/1998]

[六本松分館 428/N 45/58980212]

大住圭介 (経済学部教授)

「長期経済計画の理論的研究」

大住圭介著

頸草書房 1985

[中央図書館 333.1/O 79/1]

大住圭介 (経済学部教授)

「イノベーションと内生的経済成長：

グローバル経済における理論分析」

G.M.グロスマン, E.ヘルプマン著

大住圭介監訳

創文社 1998

[中央図書館 331.81/G 88]

大住圭介 (経済学部教授)

「経済計画の理論」

G.M.ヒール著；大住圭介訳

九州大学出版会 1995

[中央図書館 333.1/H 51/1]

大住圭介 (経済学部教授)

「内生的経済成長論 I, II」

R.J.バーロ, X.サラ-イ-マーティン著

大住圭介訳

九州大学出版会 1997-98

[中央図書館 331.19/Sa 53/1A,2]

大住圭介 (経済学部教授)

「経済計画分析：最適配分と分権的調整の数理」

大住圭介著

牧野書店 1994

[中央図書館 333.19/Ke 29-10/10]

お知らせ

秦教勲ソウル大学校中央図書館長 講演会の開催について

1. 日 時

平成10年11月 9 日(月) 13時30分から15時まで

2. 会 場

附属図書館視聴覚ホール（新館 4 階）

3. 演 題

「情報化時代における韓日文化交流と大学図書館の役割(仮題)」
通訳 松原孝俊言語文化部教授

九州大学附属図書館ホームページをご利用ください。

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>

図書館利用案内、O P A C (九大所蔵の図書・雑誌の検索)、Webcat (全国の大学図書館等の図書・雑誌の検索)、C D - R O Mサーバによるデータベース検索(Current Contents, MEDLINE, ERIC, PsycLIT, Chemical Abstracts 12CI on CD, 医学中央雑誌、雑誌記事索引) 等が利用できます。